

2016-B

VI48-B

拠出金・基金
の名称

国際農業研究協議グループ(CGIAR)/アフリカ稲センター(AfricaRice)拠出金

種 別

イヤマークのみ 一部イヤマーク

【拠出先の国際機関名】 国際農業研究協議グループ(CGIAR)/アフリカ稲センター

【所管官庁担当局課・室名】

農林水産省大臣官房国際部海外投資・協カグループ/国際機構グループ

【当該任意拠出金の目的・用途等】

アフリカ稲センターはCGIARに属する研究機関であり、アフリカの貧困削減と食料安全保障に貢献するため、持続可能な形で米の生産性と収益性を増大するための研究、開発、普及を行う国際機関。

当該拠出金によって、現地に適した水稻栽培技術の実証・普及により西アフリカ4カ国(リベリア、シエラレオネ、ベナン、トーゴ)の米の中長期的生産性向上を支援する事業を実施。

【最近3年間の我が国支払額及びODA率】

単 位	邦 貨 (千 円)	外貨1 (千米ドル)	外貨2 (千)	レ ー ト	ODA率(%)
平成28年度	36,688	306	—	1米ドル=120円	100%
平成27年度	47,089	428	—	1米ドル=110円	100%
平成26年度	68,232	703	—	1米ドル= 97円	100%

【当該任意拠出金等の意義、成果等に関する我が国としての評価】

リベリア及びシエラレオネでは、実証実験を行う圃場を新たに複数設置し、農民参加型の実証及び技術者の育成等を実施しており、平成28年度には、研修を含む技術実証圃場開発のためのワークプランを策定した。

トーゴ及びベナンでは、技術実証圃場を拠点として稲作技術体系の周囲への普及・定着を促進しており、平成28年度には、各国政府の政策にアフリカ稲センターの技術を組み込むよう働きかけ、アフリカ稲センターの知見や技術をより広く普及できるよう務めた。

これらの成果は、水田稲作に関する新技術の普及を通じ、米の収量増加と安定性を促進するものであり、アフリカの米の中長期的生産性向上に貢献していると評価できるため、我が国が拠出する意義は大きい。

【備考】